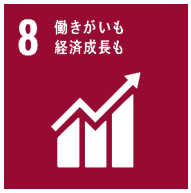
MUFGサステナビリティボンド期中報告（発行日2020年9月30日）

今回充当する適格カテゴリーについて

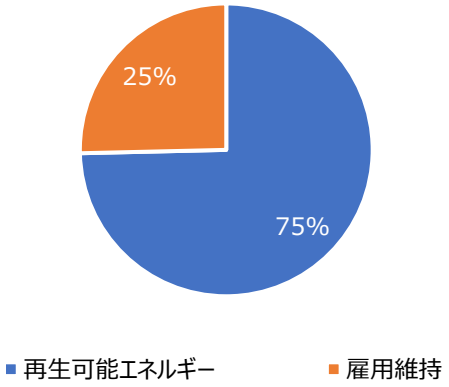
適格グリーンプロジェクト	
再生可能エネルギー 	赤道原則※1に則り環境・社会影響レビューを実施し適合性を認定した※2再生可能エネルギープロジェクト（太陽熱発電、太陽光発電、風力発電）向け融資 ※1 大規模なプロジェクト開発に伴う環境・社会に対するリスクと影響を、資金の貸し手として、または資金調達に関するアドバイザーとして、借り手である顧客と協力して体系的に特定、評価し、管理するための国際的な民間金融機関のガイドラインのことです。 ※2 適合性の認定には、赤道原則における評価上、カテゴリーB またはカテゴリーCに分類されることが必要となります。

適格ソーシャルプロジェクト	
雇用維持  	感染症拡大（COVID-19等）により影響を受けた中小企業および個人事業主を対象とした融資 ターゲットポピュレーション - 中小企業及び個人事業主

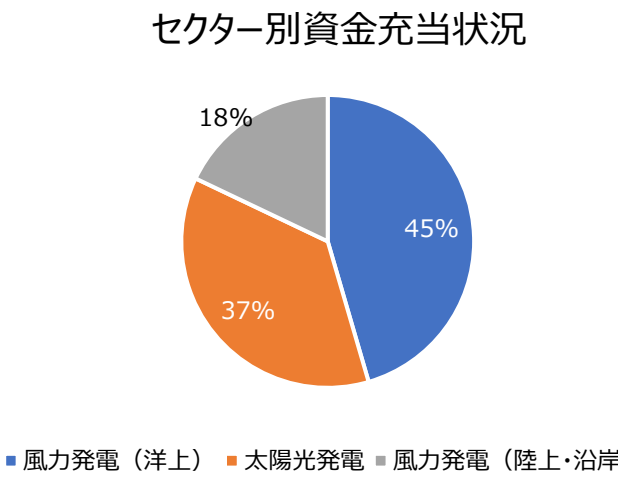
資金充当状況について（2025年3月末時点）

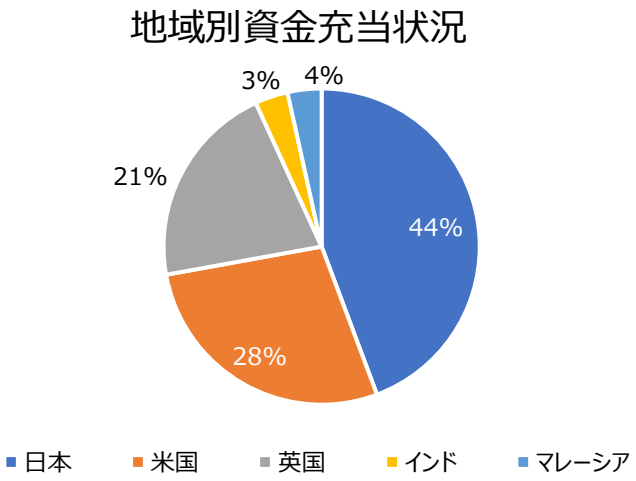
2020年9月発行のMUFGサステナビリティボンドの発行総額960億円の発行代わり金が充当されている適格グリーン/ソーシャルプロジェクトの残高は863百万米ドルです。カテゴリー別の割合は、再生可能エネルギー75%、雇用維持25%です。また、再生可能エネルギーのセクター別、地域別の割合および雇用維持の地域別、業種別の割合は下図の円グラフをご覧ください。なお、米ドル建て残高の算出においては、2025年3月末時点の為替相場を使用しています。

カテゴリー別資金充当状況

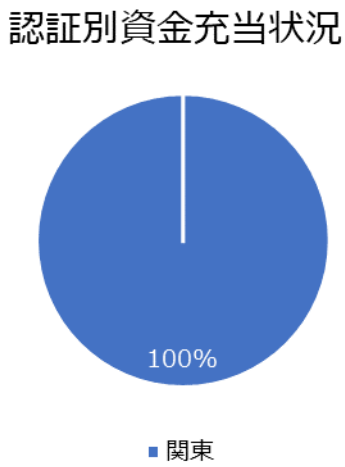


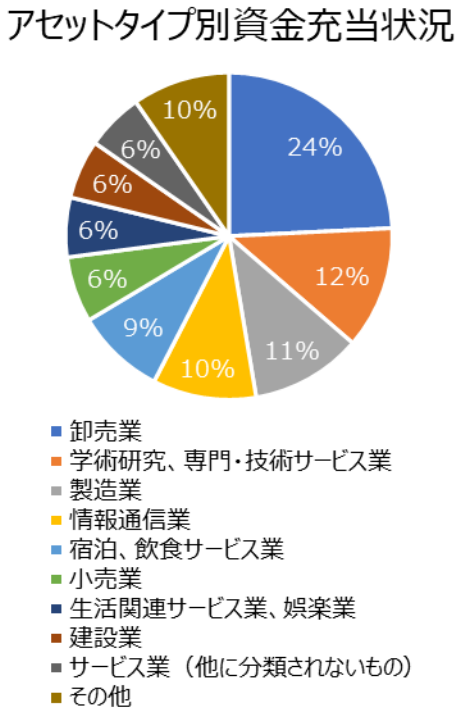
適格グリーンプロジェクト





適格ソーシャルプロジェクト





環境・社会インパクトについて（2025年3月末時点）

2020年9月発行のMUFGサステナビリティボンドの発行代わり金が充当されている適格グリーン/ソーシャルプロジェクトによる環境・社会インパクトは以下の通りです。

環境インパクト（再生可能エネルギー）

適格グリーンプロジェクトによる年間発電総量は24,727百万kWh、二酸化炭素排出削減効果の年間総量は1,246万トンです。その内、それぞれの適格グリーンプロジェクト向け融資に対する融資契約に基づく三菱UFJ銀行の融資割合をそれぞれのプロジェクトの二酸化炭素排出削減効果に乗じた量を合計した年間総量は217万トンとなります。年間発電量の算出においては、国際再生可能エネルギー機関（IRENA：International Renewable Energy Agency）が公表する平均的な稼働率を用い、以下の算式に従って算出しています。

年間発電量（kWh） ＝ 発電容量（kW）× 年間総時間数（h）× 平均稼働率（%）

また、二酸化炭素排出削減効果の算出においては、国際金融公社（IFC：International Finance Corporation）が公表する平均的な排出係数を用いています。

二酸化炭素排出削減効果 ＝ 年間発電量（kWh）× CO_2排出係数（gCO_2/kWh）

分野	セクター	年間発電総量（kWh）	二酸化炭素排出削減効果（t-CO_2/年）
再生可能エネルギー	太陽光	2,141,649,793	1,079,391 (318,093)
	風力（洋上）	20,760,253,920	10,463,168 (1,538,146)
	風力（陸上・沿岸）	1,825,541,076	920,073 (323,649)
合計		24,727,444,789	12,462,632 (2,179,888)

※ （）内の数字は三菱UFJ銀行寄与分

社会インパクト（雇用維持）

雇用維持	感染症拡大（COVID-19等）により影響を受けた中小企業及び個人事業主を対象とした融資のファイナンス及びリファイナンス件数	2,238件
	融資先の雇用者数	45,490人

情報開示について（2021年6月実施）

2020年9月発行のMUFGサステナビリティボンドの資金充当については、オランダSustainalytics社による期中レポートを取得しています。また、当該資金充当状況については、MUFG最高財務責任者（CFO）によるマネジメント・アサーション（経営陣による表明）を実施しています。

（2025年6月現在）